ドクターからの健康アドバイス

生き甲斐ある人生のために整形外科受診を

愛染橋病院
整形外科
中村（なかむら）　夫左央（ふさお）

整形外科の患者さんは、からだのあちらこちらが痛いと訴えて来られます。骨折や靭帯損傷や筋肉打撲などの外傷による四肢の痛みの他、慢性的な膝などの関節痛、腰や頸の痛み・肩こり、さらに神経痛もあります。「痛み」とは、からだのどこかに炎症や異変が起きていることを知らせるサインであり、修復過程のスイッチでもあるので大切なものです。しかし、「痛み」は嫌なもので、〝こころ〟の苦痛となり、原因を早く取り除いて欲しい、からだを休ませて欲しい、という〝肉体の叫び〟でもあります。消炎鎮痛薬などを使うと早く痛みが取れて、それまで通りの毎日を過ごしながら、治していくことができます。

ところが「痛み」が薬でも取れにくく長く続く場合に、〝こころ〟（脳）が疲れたと感じてしまって、動く意欲・活力・食欲さえなくなる人があります。若い人は、働く意欲が湧かないと言い続けて働かずこもっているだけでは生活費を稼げません。お年を召した人は、足腰の力が低下してトイレも自力でいけないくらいになってしまっては、認知症も進みやすく、家族や周囲に迷惑をかけます。それ程痛みが続く時は、より強い消炎鎮痛剤や他のオピオイド薬剤も使いますが、薬剤治療だけでは限界がある場合、手術も選択肢とすることもあります。大腿骨や脊椎を骨折した時に、たとえ80歳でも手術した方が、身近のことができるようになっています。

ここ10年間で、整形外科分野、特に脊椎外科や人工関節外科の分野では、手術方法や材質も、薬剤と同様にかなりの進歩を遂げています。老若男女とも、ご自身の力で歩き、もう一度「自分で稼ぎ」、「生き甲斐」を感じる時間を増やし、「生き甲斐」のある長寿人生の最期を送るために、どのような方法がとれるか、整形外科で相談してみてください。